



Access Map

公共交通機関からのアクセス

- ◎大分空港⇄田染荘小崎
自家用車・レンタカー
所要時間【約30分】
- ◎宇佐駅⇄田染荘小崎
自家用車・レンタカー
所要時間【約35分】

高速道路からのアクセス

- ◎院内IC⇄田染荘小崎
自家用車 所要時間【約45分】
- ◎大分農業文化公園IC⇄田染荘小崎
自家用車 所要時間【約30分】

豊後高田市市街地からのアクセス

- 自家用車 所要時間【約20分】

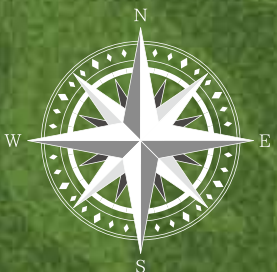


田染荘小崎の 農村景観

国選定重要文化的景観



千年の時を刻む 田染荘小崎探訪



中世から変わらぬ土地利用

台藪集落拡大図

- | | |
|----------------|------------|
| ① 夕日岩屋・朝日岩屋登り口 | ⑮ 愛宕池 |
| ② フロノモトイゼ | ⑯ ゆみきりのホダ場 |
| ③ ほたるのやかた | ⑰ 奥の堂様 |
| ④ 延寿寺(尾崎屋敷跡) | ⑱ 三嶋社 |
| ⑤ かとのいやしき | ⑲ 河野家墓地 |
| ⑥ 為延屋敷 | ⑳ 奥愛宕社 |
| ⑦ ミすみのはたけ | ㉑ 垢離場 |
| ⑧ おさきのみたうその | ㉒ 大山観音岩屋 |
| ⑨ 飯塚屋敷 | ㉓ 茅場堂 |
| ⑩ マブイゼ | ㉔ 空木池 |
| ⑪ 雨引社 | ㉕ 轆轤岩屋 |
| ⑫ 赤迫イゼ | ㉖ 良醫岩屋 |
| ⑬ ヤマノクチイゼ | ㉗ 払阿弥陀堂 |
| ⑭ 愛宕社 | ㉘ 長野観音寺跡 |



豊後国国東郡田染組小崎村絵図



夕日岩屋から見た田染荘小崎 (目次)

中世の修行場から一望できるのは、中世から変わらない絶景。
宇佐神宮の荘園としての歴史を積み重ねてきた「田染荘小崎の農村景観」は、緩やかな進化を遂げながら、現代を生きる私たちに千年前の荘園の風景を伝えてくれています。

↓岩峰の修行場 (P11)

←田染荘小崎の奥へ (P12)

田染荘小崎の信仰と

「村の鎮守」(P10)

鎌倉時代から変わらない
台藪集落 (P8)

生物多様性 (P13)

美しい水田景観 (P7)

←田染荘の文化財 (P14)

田染荘とは？

両子山ふたごの火山活動によって形成された国東半島。その南部に広がった盆地状の土地に、古代の人々は多くの水田を拓きました。やがて「田染」と呼ばれるようになったその土地の「染」の字は、一説には鉄分を指すとされます。千年以上も昔から、ミネラルを豊富に含んだ田染の米が、今と変わらず美味であったと想像させる地名です。

平安時代、田染地域は宇佐神宮の根本荘園ほんみしょう「本御荘十八箇所」の1つに設定され、「田染荘」へと生まれ変わります。宇佐神宮の庇護の下、狭い盆地・谷地には更に多くの水田が拓かれ、神仏習合の文化を存分に摂取した田染荘には、優れた文化財・景観が多く残されました。田染荘には今もなお中世の風が吹いています。

荘園の領域は、現在「田染〇〇」と呼ばれる9つの地区を合わせた範囲です。中でも田染荘小崎は荘官の屋敷であった「尾崎屋敷」が置かれるなど、田染荘の中心地であり、田染荘の歴史を考える上で重要な場所です。また、地形に合わせてつくられた大小様々な水田や、伝統的な地割が踏襲された集落などが、中世からほとんど変化していないことも分かっており、中世の村落景観を色濃く残す「荘園村落遺跡」として、国の重要文化的景観に選定されています（平成22年8月5日選定、平成28年10月3日追加選定）。



美しい水田景観

夕日岩屋（①）へ登って田染荘小崎を見下ろせば、日本の原風景とも言うべき農村景観が広がっています。田染荘小崎では地形に合わせてつくられた、大小様々な水田を見ることが出来ます。また、古い形式のイゼ（堰）をはじめとする水利施設、田越灌漑（水田から水田へと水を流す灌漑方法）といった伝統的な水利慣行が残されています。

また、田染荘小崎では宇佐神宮関係の古文書の検討により、これらの伝統的な土地利用形態が、中世からほとんど変化していないということが裏付けられています。中世の古文書に見える地名が、シコナと呼ばれる小地名やイゼの名前として、今も生きていることが多くあるのです。

元禄2年（1689年）に原本が描かれたとされる「豊後国国東郡田染組小崎村絵図（田染荘の村絵図）」を見ると、そのことをより分かりやすく体感することができます。絵図と航空写真を比較してみると、水田や家屋、自然の風景までが大きな変化がなく、数百年前の風景が、そのまま現在に伝わっていることがよく分かります。



航空写真と村絵図の比較

鎌倉時代から変わらない^{だいそん}台園集落



台園集落

夕日岩屋から見える「台園集落」には、鎌倉時代から変わっていない集落景観が残されています。台園集落は、鎌倉時代に「神領興行法」^{しんりょうこうぎょうほう}による裁判の舞台になっており、関連する多くの古文書が残されています。古文書に登場する屋敷名と、今に残る屋号との対照によって、メートル単位での「中世の村落の復元」ができる全国でも稀な場所です。

「神領興行法」^{いこくこうぶくきとう}とは、鎌倉時代に異国降伏祈禱（元寇を退けるための祈禱）で活躍した寺社に対する恩賞として、武士に押領されていた土地を返すことを定めた法です。時の荘官・妙覚^{みょうかく}は、武士達を相手取っての裁判に勝利して荘園を守り抜きました。その後、妙覚が子らに宛てた「所領配分状」により、台園集落の中世の屋敷名・地名が多く判明します。同古文書に「末が末までも、一味同心の思いをなして（皆々で思いを一つにして）」と記された妙覚の思いが届いたのか、荘園の風景は現代にも守り継がれてきました。



かとのいやしき (5)



為延屋敷 (6)



飯塚屋敷 (9)



おさきのミたうその (8)



延寿寺山門



延寿寺石殿

台藪集落でも一際大きな屋根を持つ延寿寺(④)。寛永18年(1641年)に開かれた浄土真宗寺院ですが、中世には荘官・田染氏が住んでいた「尾崎屋敷」があった場所で、荘園時代の遺構も多く残されています。

田染氏は、荘園に多くの文化を持ち込みました。中でも室町時代の荘官・田染栄忠は、宇佐神宮の神官であった経歴もあり、文化的な素養が高かったと言われています。延寿寺にも、彼が造らせた「延寿寺石殿(県指定有形文化財)」が残されています。石殿は仏殿を表した石造文化財の一種で、国東半島にその多くが分布する珍しいものです。延寿寺石殿には、六地藏や虚空蔵菩薩、観音菩薩が彫り込まれ、入母屋造の細やかな造りは国東半島随一のものとされています。

また、延寿寺の周りを取り囲む土塁・石垣・

空堀は、戦国時代に尾崎屋敷を守るために造られたものです。

戦国時代の田染氏は武士としての性格を強め、大友氏の配下としても活動するようになります。日向国(現在の宮崎県)で行われた大友氏と島津氏の決戦「耳川の合戦」に、大友氏方として田染鎮富が従軍しています。



戦国時代の石垣



戦国時代の空堀

田染荘小崎の信仰と「村の鎮守」

田染荘小崎には中世からの信仰も息づいています。

台藪集落の鎮守「雨引社」はあまのみくまりのかみ天水分神を祀る神社で、田染荘の開発の歴史と深い関係があるとされています。今でも雨引社の脇からは湧き水が流れ出しており、イゼが発達する前から田染荘小崎の水田を潤していたとされています。また、江戸時代に台藪集落の地下を通るマブイゼの水路を完成させた時にも、雨引社に深く感謝し、現在の社殿・鳥居を造っています。



雨引社 (11)



愛宕社 (14)

原地区の鎮守・あたご愛宕社、うつき空木地区の鎮守・奥愛宕社は、田染荘でも珍しい愛宕信仰の神社です。愛宕信仰では、愛宕神やその本地であるしょうぐんじぞう勝軍地蔵を信仰し、火災防止などにご利益があるとされています。田染荘小崎には中世～近世初頭にかけて、日出・蓮華院の山伏・加藤家によって信仰が持ち込まれたとされています。



奥愛宕社 (20)

奥愛宕社の例祭では、こりば垢離場と呼ばれる天然の石風呂で身を清めた氏子代表が、マイギリで火をおこし、神前に供える神事を行います。愛宕神への信仰や、火への恐れは、数百年もの間、集落の人々の間で守られてきました。

小藤地区の鎮守・三嶋社は、現在田染地区で最も多い苗字の1つである河野氏の氏神「三嶋大明神」を祀っています。田染荘小崎の河野一族は、中世に瀬戸内海等を支配した河野水軍の末裔であるとされており、小藤地区に伝わった古文書にも当時の事が記されています。田染地区では先祖の系図を祀ったり、先祖墓をつくって参ったりするなど、先祖に対する信仰心も残されています。



三嶋社 (18)

岩峰の修行場

火山活動によって形成された国東半島は、凝灰岩の風食や、地形の隆起によって、屹立した岩峰が多数生まれました。それらの岩峰を耶馬溪になぞらえて「耶馬」と呼ぶことがあり、田染地区でも各地の耶馬が風光明媚な景観として親しまれてきました。

田染荘小崎の耶馬は、六郷満山の僧侶達の修行場として多くの岩屋が拓かれ、峯入りのルートにも組み込まれていきました。岩屋とは自然もしくは人工の岩室に、仏壇などをつくった簡易的な寺院です。

間戸地区との境にある耶馬には、南北朝時代以前に夕日岩屋・朝日岩屋が拓かれています。

空木地区の耶馬には、^{ろくろ}轆轤岩屋・^{りょうい}良醫岩屋・^{はらいあみだどう}払阿弥陀堂といった多数の岩屋があったとされていますが、人々を寄せ付けない霊峰となっています。



農村景観と耶岩屋の特徴



農村景観と耶馬

六郷満山とは？

八幡神の応現とされる伝説的僧侶・仁間によって開かれた国東半島の大霊場です。

多い時で65もの寺院が開かれ、国東半島は仏像や石造文化財の宝庫となりました。

六郷満山の「峯入り」は、神仏問わず、183ヶ所の霊場を巡る修行で、平安時代には記録に見える日本最古級の峯入り修行です。かつての六郷満山では、「峯入り」を終えなければ、一人前の僧侶とは見なされませんでした。現在では10年に1度ほど、集団峯入りが盛大に行われます。



空木の耶馬



朝日岩屋 (1)



払阿弥陀堂 (27)

田染荘小崎の奥へ



ヤマノクチイゼ (13)

空木池は田染荘小崎の中でも最大のため池で、以前は小規模なため池を多数使い分けることでまかなってきた農業用水を村単位で統一させた画期的なため池です。島原藩の奉行・高橋正路は、資金集めや陣頭指揮に尽力し、洪水による堤防の決壊などに苦しみながら、天保7年（1836年）に空木池を完成させました。正路は「空木池は『永代村の宝池』である」と記し、「丁寧な手入れを怠らぬように」と地元伝えており、空木池は今でも池守によって大切に管理されています。



空木池 (24)

村絵図や昭和20～40年代の航空写真を見れば、「奥」にも道沿いに水田が広がっていた事が分かりますが、現在ではその多くが水田ではなくなっています。しかし、それらの水田跡は役目を終えた訳ではなく、里山農業の場として再利用されています。



空木地区の石垣とクヌギ林

空木地区を進むと、巨大な石で築かれた石垣が道の両脇に現れます。ここも元々は水田でしたが、現在ではクヌギ林に変わっています。水田跡を里山農業に利用することは、①傾斜地が多い地区において平坦な土地は水田の故地しかない点、②森と一定の距離があって背の低いクヌギの生育がしやすい明るい環境がある点から、理に適っています。

水田跡がホダ場として利用されたこと
によって残された貴重な地形もあります。
愛宕池の上手に作られた「ゆみきり
のホダ場」は、鎌倉時代の古文書に登場
する水田「ゆみきり」の故地につくられ
たホダ場です。緩やかな段が、弓のよ
うな円弧形で区切られている地形は、地名
の由来にもなったと考えられています。

田染荘小崎では、多くの水田が、水田
としての役割を終えたものの、里山農業
の場として利用され、そのことによって
中世から変わらない地形が守られている
のです。



ゆみきりのホダ場 (16)

生物多様性

田染荘小崎は、今では珍しくなった動植物を多数見ることができます。

田染荘小崎は昔からホタルが有名で、田植えの時期になると、川沿いにはゲンジボタル、
森林側にはヒメボタル（別名、オカボタル）が飛び交います。

また50種類以上のトンボ（中には絶滅が危惧されるトンボも生息しています）が確
認される他、オオイタサンショウオもよく見かけます。

植物も岩峰によく生えるイワヒバが群生していますし、絶滅が危惧されるイブキシモ
ツケ・ブゼンノギクなども成育しています。



飛び交うホタル



ベニイトトンボ



フタスジサナエ



オオイタサンショウオ



イワヒバ



イブキシモツケ

田染荘の名所・文化財

六郷満山の仏教文化の栄えた田染荘には多くの文化財が残されています。

○富貴寺大堂（田染露）

富貴寺は、宇佐神宮の大宮司家の菩提寺として平安時代に開かれたとされています。中でも国宝・富貴寺大堂は九州最古の木造建築物で、内部には国指定重要文化財の木造阿弥陀如来坐像・大堂壁画により極楽浄土の世界が再現されています。境内には石造文化財が多く所在しており、中世の祈りの場の風景を今に伝えているとして、国の史跡にも指定されています。



富貴寺大堂

○真木大堂（田染真木）

六郷満山随一の大寺院・伝乗寺があったと伝わる真木大堂には、都にも劣らぬ、優れた仏像群が残されています。収蔵庫内の9体の仏像はいずれも国指定重要文化財で、鎌倉時代の古文書に登場する組み合わせで現在に伝わっています。中でも木造大威徳明王像は日本最大のもので、牛に跨る姿から家畜の病気を防ぐとされるなど、多様な信仰の対象となっています。



木造大威徳明王像



木造阿弥陀如来坐像

○田染耶馬（田染上野など）

角礫凝灰岩の風食によって形成される独特の岩峰は、国東半島のいたる場所で見ることができ、耶馬溪になぞらえて「耶馬」と呼ばれています。

田染地区では、田染上野・三ノ宮八幡神社の対面に聳える岩柱が小耶馬溪と名高い景勝地「三ノ宮の景」として著名です。



三ノ宮の景

○熊野磨崖仏（田染平野）

熊野社参道にある自然石で積まれた石段の先には、日本最大級の磨崖仏・熊野磨崖仏（国指定重要文化財かつ国指定史跡）が聳えています。高さ7m程の大日如来像は平安時代の作で、崖から浮き出たような姿は国東半島独自の像容です。高さが8mを越す不動明王像は鎌倉時代の作で、不動明王らしからぬ柔和な表情が印象的です。



熊野磨崖仏

○鍋山磨崖仏（田染上野）・

元宮磨崖仏（田染真中）

鍋山磨崖仏は、田染上野の鍋山イゼ付近の丘陵に造られた不動明王の磨崖仏です。高さは2.3mと小ぶりですが、鎌倉時代の作とされ、不動明王の悠然さがしっかりと表現されています。元宮磨崖仏は、元宮八幡神社脇の岩壁につくられた5体の磨崖仏です。いずれも半肉彫りによる国東半島らしい表現が見られ、国の史跡に指定されています。



鍋山磨崖仏

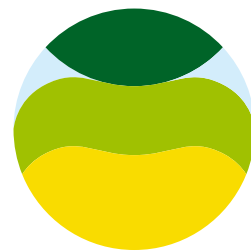


元宮磨崖仏

世界農業遺産の里「田染荘小崎」

国東半島宇佐地域は、少ない水資源を効率的に活かすために形成された「ため池」と「クヌギ林」の循環型農林業のシステムが高く評価され、「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」として世界農業遺産（GIAHS）に認定されています。

中でも田染荘小崎は、認定基準の内「景観」「農業文化」の部門で、特に高い評価を得ながら、国東半島に特徴付けられる循環型農林業の典型を地域内で見ることができることから、国東半島宇佐地域における世界農業遺産の代表的なコアサイトとされています。



国東半島宇佐地域
世界農業遺産
Kunisaki Peninsula Usa GIAHS